

第57回まことの保育中央講座 開催報告

保育連盟研修委員会



まだまだ暑さの残る8月の京都。8月18日(日)～20日(火)の2泊3日にわたり本願寺の聞法会館で「第57回まことの保育中央講座」が開催されました。全国より44名の保育者の先生方にご参加いただき、7つの班に分かれて班別討議を中心とした講座を行いました。

〈1日目〉

講座の始まりは、本願寺御影堂での開講式です。緊張した空気の中、「幼児のおつとめ」をしました。受講生の皆さんは、これから始まる研修に期待と不安を抱えているようで、緊張した様子でした。式中には、指導員の先生方を含め、全員でご本尊に合掌し、「私たちのちかい」も唱和しました。

開講式後は、聞法会館にてオリエンテーションを行い、引き続き保育連盟研修委員長に加藤憲指導員より「講座受講の心得について」の講義をいただきました。講義では「私も皆も虚心に育ちあってください。親鸞さまの教えに立ち、振り返りながら、自分の課題に気づいてほしい」と、講座開催の願いについ



班別討議の様子

てのお話がありました。そして、1回目の班別討議に移り、自己紹介や役割決めなど、和やかな雰囲気でご各班の話し合いが始まりました。

討議①の後、全員が集まり、龍谷大学非常勤講師の小池秀章先生より「浄土真宗のみ教えを学ぶ」の講義で、真宗基礎講座①を受講しました。「まことの保育」とは保育者がみえをよりどころとした保育であり、保育者自身がみえを通して自己を見つめ直し、振り返ることが肝要であると教えていただきました。また、仏さまのお話や、お浄土について、わかりやすくご講義いただきました。特に、お浄土とは私たちの目に見える世界ではなく、つながり合っている全てのいのちが、それぞれ光り輝いている世界のことであり、その世界に照らされることで、また自己を省



真宗基礎講座 小池秀章先生

みる大切な機会をいただくということを教わりました。

夕食をはさみ、2回目の班別討議を行いました。討議②では、日々の悩みや課題を出し合い、うなずき合いながらいろいろな話をしました。その後、織田智海指導員より「まことの保育の理念について」の講義をいただきました。縁起の教えに基づき、あらゆるいのちはすべて関係性で生かされているのちであると示されたうえで、3法令の改訂・改定と「まことの保育」との関わりなどについてお話を聴かせていただきました。「先生大好き！と言ってくれる子どもに支えられている私です」「だからこそ、共に育ちあう」という織田指導員の言葉に、受講生一同、真剣に耳を傾けました。

〈2日目〉

2日目は、朝6時からの本願寺御影堂でのお晨朝を参拝した後、書院を拝観させていただきました。普段は見ることのできないお部屋や装飾を丁寧な説明とともに見学することができました。

聞法会館に戻り朝食をいただいた後は、1日目に引き続き、小池先生の真宗基礎講座②を受講しました。仏さま、親鸞さまについてわかりやすくご講義いただき、阿弥陀さまの

おはたらきや、「南無阿弥陀仏」のお念仏について教わったことで、「まことの保育」の理念についてさらに学びを深めることができました。その後、3回目の班別討議を行いました。

昼食後は、浄土真宗本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室 研究協力者の野村佳代先生とピアノ伴奏の山内真理子先生より、仏教讃歌の歌唱指導をいただきました。その後、4回目となる班別討議を行い、各班、翌日の全体会に向けて討議を重ねました。

討議④の後は、ビュッフェ形式の夕食交流会の時間です。各班、おいしいお食事をたくさんいただき、懇親をさらに深める時間となりました。交流会後半では、深澤素子指導員の司会のもと、全体でジャンケン列車ゲーム



仏教讃歌 野村佳代先生

をしたり、班ごとにゲームやダンスなどの出し物を披露して、班の垣根を越えて交流を深めました。最後には、受講生全員で1つの灯火をみつめ、加藤指導員の法話を聞き、自分を振り返る機会をいただきました。

＜3日目＞

最終日は、お晨朝の参拝に引き続き、7名の方が帰敬式を受式されました。

開法会館に戻って朝食をいただいた後、5回目となる最後の班別討議を行いました。討議⑤では、各班3日間のまとめとして話し合い、受講生それぞれの思いをレポートにまとめました。

この講座では、3日間で延べ9時間25分にもおよぶ班別討議がありました。また、班別討議の時間以外でも、宿泊が同室の受講生同士で、夜遅くまで話し合いをされていたようです。

最後のまとめである全体会では、この講座で気づかせていただいたことを班ごとに報告しました。

職場や保護者との人間関係に悩み、行事に追われ、大切な子どもたち一人ひとりに向き合うことができていないなど、それぞれの悩みを共有しながら、小池先生の真宗基礎講座を受けて「どこまでも自己中心にしか考えら

れない私」「煩惱から離れられない私」が浮き彫りになり、今まで自分のものさしでしか子どもたちや保護者を見ていなかったなど、さまざまなきづきについて報告がありました。各班、自分の保育を深く見詰め直す話し合いがされていたことがわかりました。

また、各班の報告の中には「縁起」という言葉が多くありました。「私がいてつながっているのではなく、つながりがあるから私がいる」という小池先生の言葉から、子ども・保護者・同僚保育者がすべてつながって私があるとの気づきがあり、そこから、それぞれの悩みがなくなり、討議が深まっていったことを感じました。



全体会

最後に、閉講式と修了証の授与が行われました。閉講式中、受講生を代表して、鹿兒島教区認定こども園鴨池幼稚園の森園聡美先生より謝辞を述べていただきました。

〈受講生代表謝辞〉

保育連盟事務局の先生方、指導員の先生方、講師の先生方、お忙しい中、私たちのために貴重なご指導をいただき、ありがとうございます。

この3日間を振り返りますと、講師の先生方のお話を聞きもらさぬよう、書きもらさぬようにしている私がいまいました。

グループ討議で私の班は、「自己中心とは」ということを話し合う中で、人とかかわりや縁起について意見を出し合いました。話し合うほどに深さは増していき、出口はないのかと思われた時、あらためて「私たちのちか」と開講式の「誓いのことば」を読み返しました。その時に、ずっと自分の中に入ってくるもの、光が射すような感じがあり、私の心に穏やかさが広がっていくのを感じました。答えが出ないままの話し合いが続くのですが、完璧でない私の存在を受け入れられたようです。そこから、いろいろな物、人、事象など私を取り巻く見えないつながりに感謝する気持ちに気づかされました。

昨夜の交流会の最後に、加藤先生が「灯を見つめ、大切な人を思い浮かべてください」と言われた時、涙があふれてくる自分に驚きました。地元に戻ったら、たくさんの人と、よしよし（ねざらい合い）をしりたいと思います。これまで私はご門徒の方々が「ナモアミダブツ」と何度も何度も称えている姿を不思議に思っていました。けれど、この3日間を過ごし、有難いお話やグループの先生方との討議の中で、感謝する気持ちがあればこそ、「ありがとう」と「ナモアミダブツ」が素直にこぼれ出ていたことに気づきました。

私は4月から主幹をさせていただいています。私自身がきちんとできているのかと不安に思っていたのですが、完璧でない私の存在



交流会の様子～灯を囲んで～

を受け入れながら、これからも今回出遇えた先生方とともに、「私たちのちかい」や親鸞さまのみ教えをよりどころとして成長していきたいらと思えます。

この講座に参加することができて本当に良かったです。私を送り出してくださった幼稚園の先生方、家族、3日間に出遇ったすべてのご縁に感謝して、お礼の言葉にかえさせていただきます。

受講生代表 鹿兒島教区

認定こども園鴨池幼稚園 森園 聡美

閉会式後、担当指導員より受講生一人ひとりに、初日の開講式後に撮影した記念写真が手渡されました。受け取った受講生が「ものすごく前のことのように感じる」「顔が緊張している」と笑顔で口々に話している姿を見て、内容の濃い充実した3日間を過ごされたことを感じました。



謝辞